

聴導犬レオンがくれたHappyな毎日

捨て犬だった雑種犬が私の耳になりました

日本にはまだ、たったの30頭。



心を一つに
力を一つに

玄関のチャイムが鳴ると同時に、レオン(4歳♂)はトコトコと安藤美紀さん(42)の元に走り寄り、そっと体にタッチした。そして玄関へと歩いていく。耳の聞こえない飼い主に誰か来たよと教えているのだ。

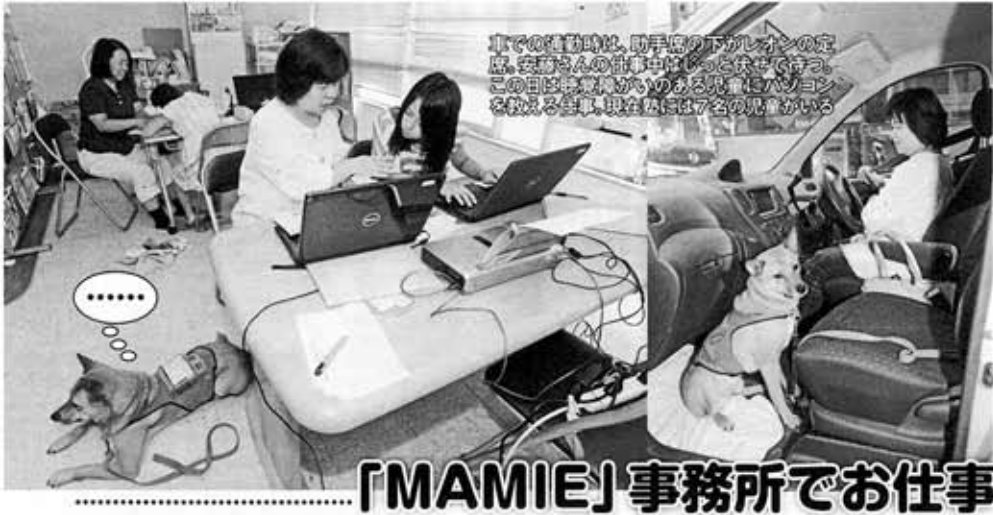
聴導犬は、音を伝える犬。家の中では、目覚ましや湯沸かし器など、多様な「生活の音」をユーザーに知らせる。外では「聴導犬」と書かれたケープをつけ、ユーザーを安全に誘導する。

生まれつき耳の聞こえない安藤さんがレオンに出会ったのは、今から2年前のことだった。

「レオンが来てくれて、生活がとても楽になりました。宅配便が来る日に、じっと玄関を気にして待っている必要もないし、外を歩いているときに何度か後ろを振り向くこともなくなりました。チャイムの音や、往來の車の音を、レオンが教えてくれるから。聞こえない「音」にずっと神経を張りめぐらせて暮らすのは、実はとても疲れることなんです。小さなことで人に頼る必要がなくなったのも、精神的には大きいですね。

聴覚障がい者は、見た目ですらとわからない。だからこそ、外に出るときは人一倍の注意が要ります。聴導犬のケープをつけたレオンと歩いていると、私が聞こえないことを周りに気づいてもらえます。皆さんが気をつけてくれるから、今は安心して外に出られます」

安藤さんは、聴覚障がい者のための特定非営利活動法人「MAMIE」の代表も務める。聴覚障がい者への



北での通勤時は、助手席の下がレオンの定座。安藤さんの計画中のじっと伏せて待つ。この日はお昼寝のつもりでパソコンを動かさず、現在奥座敷7名の見守りがいる

「MAMIE」事務所でお仕事



電車に乗って

電車に乗るときは安藤さんの両足の間に挟まって

起床



目覚まし時計が鳴ると、安藤さんの顔を鼻でつつく。安藤さんが起きるまで延々と待つ

起きて

在宅ワーク中



母さん

娘の「お母さん」が「ママさん」で呼ぶ。安藤さんは「ママさん」で呼ぶ。仕事中の安藤さんの声は、娘の「ママさん」で呼ぶ。

呼んでるよ



ライブにも!

安藤さんは音楽が大好きで、趣味はカラオケ。耳は聞こえなくても、特殊な補聴器が伝えてくれる「骨導」で音を感じることができる。この日のライブに出演したのは、チャレンジド(障がい者)支援の社会福祉法人「プロップ・ステーション」理事長・竹中ナミさん率いる「ナミねえBAND」。熱い歌声に、レオもじっと聞き入っていた

撮影/鈴木健一

●聴導犬普及協会への寄付はこちらから。
【振込先】ゆうちょ銀行 店番:008
口座番号:4006867
口座名:(特非)聴導犬普及協会/詳細、その他の口座情報は<http://www.hearingdog.jp/org/shiennoonagai>でご確認ください
●特定非営利活動法人「MAMIE」
FAX06-6885-4141 <http://www.mamie.jp>

彼らが日本の社会に根づく日がくることを、願ってやまない。

聴覚障がい者の耳となり、かけがえないパートナーともなる聴導犬。彼らが日本の社会に根づく日がくることを、願ってやまない。

「生まれたときから耳の聞こえない私でさえ、聴導犬の存在を知ったのは、たった7年前です。日本では、聴導犬はまだ本当にマイナーな存在です。耳が自由な人のなかには、自分の障がいを隠しておきたいという理由から、聴導犬を敬遠する人も多い。でも、私はレオンが来たことで、周りの人にも「耳の聞こえない人」とわかってもらえて、本当に解放されました。1人になることも、もう不安ではありません。彼はもう私の一部です。この安心感と喜びを、多くの人に感じてもらいたいです」

その認知度の低さと資金不足から、日本の聴導犬は現在わずか30頭。その多くがレオンのように、聴導犬協会が動物愛護センターから引き取った雑種犬。つまり、元捨て犬だ。育成費はすべて寄付で賄われている。

在宅ワークの幹旋(かっせん)、聴覚障がい児のための塾の運営、そして講演会やイベントなど、聴導犬の普及活動も行っている。

「生まれたときから耳の聞こえない私でさえ、聴導犬の存在を知ったのは、たった7年前です。日本では、聴導犬はまだ本当にマイナーな存在です。耳が自由な人のなかには、自分の障がいを隠しておきたいという理由から、聴導犬を敬遠する人も多い。でも、私はレオンが来たことで、周りの人にも「耳の聞こえない人」とわかってもらえて、本当に解放されました。1人になることも、もう不安ではありません。彼はもう私の一部です。この安心感と喜びを、多くの人に感じてもらいたいです」